

まえがき

ある日、とあるツイッターのテキストが目飛び込んできた。

「モー周りは結婚していくから私は行き遅れまっしぐらだし、やりたいことがわからないし、仕事も決まらんし、親からはボロクソ言われるし、メンタルは治らんし、体重は減っていく一方だし、生きるのやめたいワー」

その人は、僕から観ると、結婚相手候補と思わしき人もいるし、やりたいこともありそうだし、仕事もそれなりにしていそうだし、親との関係はわからないけれど、メンタルも芯が強そうだし、確かにとつてもコンパクトな体格だけど美貌もあるし、自分というものを持っている人だと感じていた。

だから「こりゃどうしたことか!？」と感じて、すかさずメッセージを送ってしまった。そのメッセージは、およそ次のような内容を伝えた。

「ありのまま自分でいい。すべてそのままの自分自身でいい。必要なものは全部自分の中にある。やりたいことを全力でやればいい。ワクワクすることに没頭すればいい。

それが仕事になる。『イイね!』という『共感』の時代。もう昭和でも平成でもない『私は何者なのか、何ができるのか』そんなことが重要な時代」

恐らくこれは一握り。ツイッターで発散できるだけまだマシ。こんな人はたくさんいるに違いない。そう感じた僕は、このメッセージを広く発信したいと強く思った。そんなとき、ありがたくこの出版社Galaxy Books株式会社さんからお声がけいただいた。実は前々から「いつかは本を出版しよう」と想いながら、ブログに言いたいことや、日々感じたことをしたためていた。だからお声がけいただいたときは、そのときが来た! という感じで「出版します!」と即答した。

やるべきときが来たと感じられた。決して急ぐわけでもなく。必要なときに必要なものがやってくる。後はそれを選ぶか選ばないか、そのときにそれを選択する感覚。センスと確信があるのかないのかということ。

僕だけでなく、あなたも同じこと。この本をこうして読んでくれているのも、必要なときに必要なことをしている。そしてそれは必ず肯定的なこと。否定的なことは起こらない。なぜそう言いきれるのか、それはこの本の中で詳しく語っていきたいと思う。

ところで僕という人間は、幼稚園児のころから乗り物が好きだった。鉄道、バス、タクシー、船、飛行機なんでも興味があつた。小学2年生のころに『サーキットの狼』という漫画を読むことに没頭した。そしてスーパーカーブームがやってきた。地元のお店街にもその『サーキットの狼』に登場するスーパーカーたちがやってきた。そのスーパーカーたちのサーキット走行映像を、目をキラキラさせながらテレビで観ていた。

中学3年生からは親の転勤を機に東京で過ごした。電車好きゆえに、週末は関東圏の電車に乗りまくっていた。大学から部活で自動車部に入りモータースポーツ参戦が始まった。クルマ関係の雑誌の編集部でもバイトに励んだ。大学の研究室でも台上でエンジンを回して卒論を書いた。そのおかげで、最初に入社した会社では、世界ラリー選手権参戦車両やダカール・ラリー参戦車両のエンジンを担当することができた、世界中を飛び回った。

その後転職した会社では、その経験を活かし、軽自動車のオープンスポーツカーの企画開発に従事することができた。その自分で企画開発したオープンスポーツカーで現在もモータースポーツに参戦している。日本全国のオーナーさんたちとつながりな

がら、一緒にオープンカーライフも楽しんでいる。

今後は、今住んでいる大阪のみならず、日本のみならず、地球のみならず、太陽系、太陽系の外側の宇宙にも飛び出して、いろいろな人たちとコミュニケーションをとり、一緒にワクワクしていきたいと想っている。